

# 環境活動レポート

## 平成28年度版

(対象期間：平成28年10月～平成29年9月)

C L E A N P O W E R

きれいな街づくりのお手伝い

平成29年10月31日作成



クリーン総業株式会社



エコアクション21  
認証・登録番号0001774

# 目 次

I	組織の概要	.....	P 1～P 6
	1. 事業者名及び代表者氏名	.....	P 1
	2. 所在地	.....	P 1
	3. 資本金	.....	P 1
	4. 法人設立年月日	.....	P 1
	5. 売上高	.....	P 1
	6. 事業活動の概要	.....	P 1
	7. 事業規模等	.....	P 2
	(1) 組織図		
	(2) 従業員数		
	8. 許可の概要	.....	P 3
	(1) 産業廃棄物収集運搬業許可		
	(2) 産業廃棄物処分業許可		
	9. 施設等の状況	.....	P 4
	(1) 作業車両		
	(2) 処理施設		
	10. 処理の工程	.....	P 5
	(1) 処理フロー図		
	11. 廃棄物取扱いの実績	.....	P 6
	(1) 汚泥取扱実績		
	(2) 汚泥以外の産業廃棄物の 取扱実績		
II	E A 2 1 対象範囲	.....	P 6
III	環境方針	.....	P 7
IV	環境目標	.....	P 8
V	環境目標の実績	.....	P 9
VI	環境活動計画と取組の評価及び次年度の取組内容	.....	P 10～P 11
	(1) 環境活動計画と取組の評価		
	(2) 評価のまとめ		
VII	環境関連法規等の遵守状況	.....	P 12
VIII	代表者による全体評価と見直しの結果	.....	P 13
IX	地域・社会貢献	.....	P 14

# I 組織の概要

## 1. 事業者名及び代表者名

事業者名 : クリーン総業 株式会社  
代表者名 : 代表取締役 大石 保男  
ホームページ : <http://www.clean-s.jp>  
環境管理責任者 : 小川 正人  
連絡先 : TEL 0258-22-0008 FAX 0258-23-1884

## 2. 所在地

越路営業所 : 新潟県長岡市釜ヶ島字藤場2520番地  
汚泥中間処理場 : 新潟県長岡市釜ヶ島字藤場2514番地  
ストックヤード : 新潟県長岡市西野字泉島1232  
魚沼営業所 : 新潟県魚沼市須原1000-1 ※転送電話が有るのみで無人です。  
会社登記本店 : 新潟県長岡市南町2丁目4番4号 (登記のみで無人です。)

## 3. 資本金

1000万円

## 4. 法人設立年月日

昭和58年3月1日

## 5. 売上高

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高	458百万円	491百万円	407百万円

## 6. 事業活動の概要

- ・産業廃棄物処理業（収集運搬・中間処理）
- ・下水道管路施設維持管理業
- ・リサイクル改良土販売業

7. 事業の規模等  
 (1) 組織図

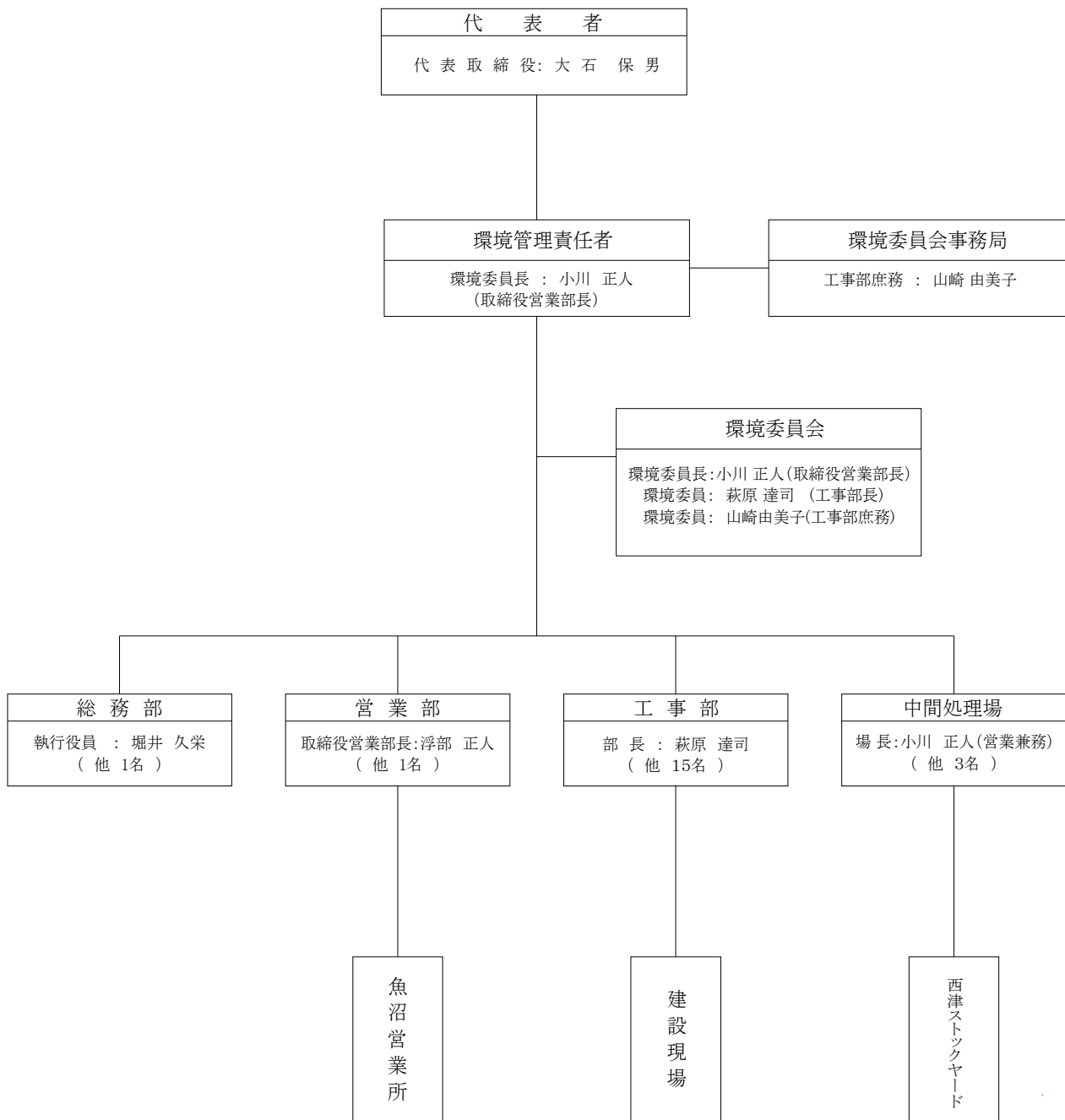


図-1 クリーン総業 株式会社 組織図

(2) 従業員

合計 : 25人 (代表取締役含む)

## 8. 許可の概要

### (1) 産業廃棄物収集運搬業許可

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	汚泥	鋳さい	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック	ガラスくず コンクリートくず 及び陶器くず	金属くず	ゴムくず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	備考
新潟県	1504000434	平成27年7月14日 ～ 平成32年6月25日	○	○	○	○	○	○	○				○	○				積替え・保管を除く
群馬県	1000000434	平成29年5月7日 ～ 平成34年5月6日	○	○	○	○	○	○	○				○	○				
長野県	2009000434	平成29年5月29日 ～ 平成34年5月28日	○															
宮城県	4000000434	平成28年11月25日 ～ 平成33年11月24日	○															

### (1) 産業廃棄物収集運搬業許可（特別管理産業廃棄物収集運搬業許可証）

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	汚泥	鋳さい	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック	ガラスくず コンクリートくず 及び陶器くず	金属くず	ゴムくず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	備考
新潟県	1554000434	平成25年8月12日 ～ 平成30年8月11日													○			揮発油類・灯油類 及び軽油類に限る。

### (2) 産業廃棄物処分業許可

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	汚泥	鋳さい	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック	ガラスくず コンクリートくず 及び陶器くず	金属くず	ゴムくず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	備考
新潟県	1524000434	平成27年7月14日 ～ 平成32年6月25日	○															処理方法: 脱水・造粒固化

## 9. 施設等の状況

### (1) 作業車両

#### ア 産業廃棄物収集運搬

表-1 収集運搬使用車両

車両の種類	最大積載量 (kg)	台数
11t 強力吸引車	7400 ~ 9200	5
6t 強力吸引車	4320	1
4t 強力吸引車	2600 ~ 2920	2
10t ダンプ	9000 ~ 9400	2
4t ダンプ	3700	1
2tトラック	2000	1

#### イ 排水施設の清掃・補修・維持管理

表-2 排水設備清掃・補修等使用車両

車両の種類	台数	車両の種類	台数
4t 高圧洗浄車	2	カメラ搭載車	1
4t 給水車	1	2t 工作車	1
2t 補修プラント車	1		

### (2) 処理施設

#### ア 脱水処理施設

設置場所 : 新潟県長岡市釜ヶ島藤場2514番地  
 処理する産業廃棄物 : 汚泥  
 設置年月日 : 平成2年 9月 1日  
 処理能力 : 16m<sup>3</sup>/日  
 処理方法 : フィルタープレス

#### イ 造粒固化処理施設

設置場所 : 新潟県長岡市釜ヶ島藤場2514番地  
 施設の数 : 2基  
 処理する産業廃棄物 : 汚泥  
 設置年月日 : 平成13年 2月19日  
                   平成14年 2月20日  
 処理能力 : 240m<sup>3</sup>/日 (2基)  
 処理方法 : オデッサシステム

10. 処理の工程

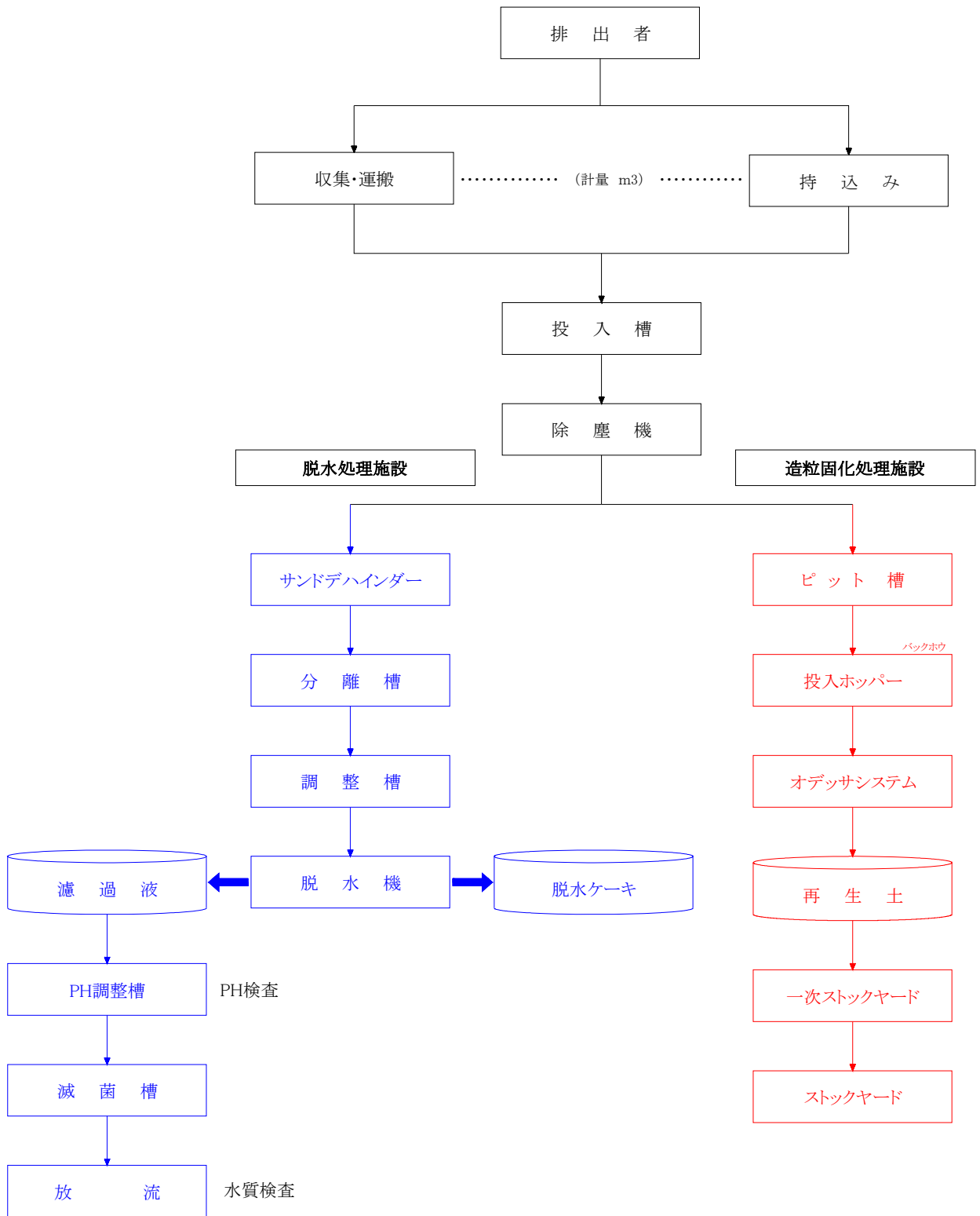


図-2 処理フロー図

## 11. 廃棄物取扱の実績

### (1) 汚泥の取扱実績

表-3 汚泥（建設汚泥）の取扱実績 (単位：t)

処理の内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度
収集運搬量	27,217	33,464	21,011
受託処理量	29,253	35,180	23,177
脱水処理	実績なし	実績なし	実績なし
造粒固化処理	29,253	35,180	23,177
再生資源化量	22,115	31,790	22,449

### (2) 汚泥以外の産業廃棄物の取扱実績

建設汚泥以外の産業廃棄物の収集運搬はありません。

## Ⅱ 対象範囲（認証・登録範囲）

(1) 組織 : 全組織

(2) 活動 : 全活動



## Ⅲ 環境方針

### 環境方針

#### 環境理念

クリーン総業株式会社は、下水道管路施設等の維持管理及び管路堆積物汚泥や建設副産物として発生する建設汚泥等の収集・運搬並びに中間(再生)処理、汚泥のリサイクル製品販売を行っています。これらの事業の展開により、当社の経営理念である「きれいな街づくりのお手伝い」を進めながら、土壌及び水環境保全並びに廃棄物対策など地域の環境保全に貢献したいと考えています。

このため、当社は「かけがえのない地球の環境保全」を環境理念として事業活動を行い、地球環境保全への取組みの第1歩として足元の地球環境保全及び循環型社会の構築に向けた取組みを推進いたします。

また、資源を大切に使い尚且つそれらの再利用を繰り返してきた、先人達の「もったいない」という精神を受継ぎ、省資源・省エネルギーを一層推進し、当社から当社従業員の家庭へと取組みの輪を広げることにより、地球社会における環境活動の促進を図り、豊かな国土を次世代に引継ぐ努力をします。

### 環境方針

- 1 日常業務の実施においては、環境関連の法規制を遵守します。
- 2 汚泥の収集・運搬車両のエコドライブを進め、省エネと排気ガスの抑制に努めます。
- 3 事業実施により排出する廃棄物の削減に努めます。
- 4 産業廃棄物中間処理に使用する薬品は、使用の効率化を図り、省資源化に努めます。
- 5 地下水揚水量を適切に管理し、地下水揚水量を削減することにより排水量の削減に努めます。
- 6 事務用品及び機器等のグリーン化を図り、再生資源の利用と省エネに努めます。

当社は、環境方針を達成するため、全社員の環境意識の向上を図るとともに環境マネジメントシステムを構築し、これを適切に運用し、全員参加のもとに継続的に環境活動の改善を図ってまいります。

制定日：2006年 7月 27日

改定日：2009年 11月 17日

**クリーン総業 株式会社**

代表取締役 **大石 保男**

# Ⅳ 環境目標

表-4 3カ年環境目標（平成28年度～平成30年度）

取組項目	基準数量 基準年度	年 間 目 標							
		28年度		29年度		30年度			
1 二酸化炭素排出量削減 (kg-Co2/ t)	26.888	H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りのCo2排出量に対し、H28年度の収集・運搬汚泥1tCo2排出量を1%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りのCo2排出量に対し、H29年度の収集・運搬汚泥1tCo2排出量を2%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りのCo2排出量に対し、H30年度の収集・運搬汚泥1tCo2排出量を3%削減する			
		目標値	26.619	目標値	26.350	目標値	26.081		
		(1) 電力使用由来の二酸化炭素排出量削減 (kg-Co2/ t)	2.4980	H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの電力由来Co2排出量に対し、H28年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を1%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの電力由来Co2排出量に対し、H29年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を2%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの電力由来Co2排出量に対し、H30年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を3%削減する	
				目標値	2.473	目標値	2.448	目標値	2.423
(2) 軽油使用由来の二酸化炭素排出量削減 (kg-Co2/ t)	22.104	H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの軽油由来Co2排出量に対し、H28年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を1%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの軽油由来Co2排出量に対し、H29年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を2%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの軽油由来Co2排出量に対し、H30年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を3%削減する			
		目標値	21.883	目標値	21.662	目標値	21.441		
(3) がりり使用由来の二酸化炭素排出量削減 (kg-Co2/ t)	2.286	H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りのがりり由来Co2排出量に対し、H28年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を1%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りのがりり由来Co2排出量に対し、H29年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を2%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りのがりり由来Co2排出量に対し、H30年度の収集・運搬汚泥1t当りのCo2排出量を3%削減する			
		目標値	2.263	目標値	2.240	目標値	2.217		
2 廃棄物の排出量削減									
(1) 自社排出産業廃棄物の有効活用率の向上	98% (建設汚泥100%)	有効活用率を98%以上とする。中間処理した建設汚泥は100%活用する。		有効活用率を98%以上とする。中間処理した建設汚泥は100%活用する。		有効活用率を98%以上とする。中間処理した建設汚泥は100%活用する。			
		(2) 自社排出一般廃棄物の削減 (kg)	有効活用率35%以上 617.03kg (H22)	有効活用率を35%以上とし、H22年度排出量の5%削減する。		有効活用率を35%以上とし、H22年度排出量の6%削減する。		有効活用率を35%以上とし、H22年度排出量の7%削減する。	
				目標値	586.18kg	目標値	580.00kg	目標値	573.84kg
3 コピー用紙使用量（購入量）の削減									
(1) コピー用紙購入量削減 (kg)	253kg (H26)	平成28年度の購入量を平成26年度の年間使用量の1%削減とする。		平成29年度の購入量を平成26年度の年間使用量の2%削減とする。		平成30年度の購入量を平成26年度の年間使用量の3%削減とする。			
		目標値	250.47kg	目標値	247.94kg	目標値	245.41kg		
4 主要事務消耗品のグリーン化									
(1) グリーン商品購入率 (%)	55%以上	グリーン商品購入率(品目数)を55%以上とする。		グリーン商品購入率を(品目数)60%以上とする。		グリーン商品購入率を(品目数)65%以上とする。			
5 総排水量									
(1) 地下水使用量の削減 (m3/ t)	0.545 (H24.H26)	H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの地下水使用量に対し、H28年度の収集・運搬汚泥1t当りの地下水使用量を1%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの地下水使用量に対し、H29年度の収集・運搬汚泥1t当りの地下水使用量を2%削減する		H24・26年度の2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの地下水使用量に対し、H30年度の収集・運搬汚泥1t当りの地下水使用量を3%削減する			
		目標値	0.540	目標値	0.534	目標値	0.529		
6 固化材使用量の削減									
(1) 固化材使用量の削減 (t/t)	0.132 (H24.H26)	H24・26年度2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの固化材使用量に対し、H28年度の収集・運搬汚泥1t当りの固化材使用量を1%削減する		H24・26年度2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの固化材使用量に対し、H29年度の収集・運搬汚泥1t当りの固化材使用量を2%削減する		H24・26年度2年間に収集・運搬した汚泥1t当りの固化材使用量に対し、H30年度の収集・運搬汚泥1t当りの固化材使用量を3%削減する			
		目標値	0.131	目標値	0.129	目標値	0.128		

※ 電力量の二酸化炭素排出係数を平成26年度実績の東北電力(株)の実排出係数0.000571 (t-Co2/kwh)を使用した  
 ※ PRTR制度対象の化学物質を使用していない為、目標を定めていない。

## V 環境目標の実績

表-5 環境目標実績・評価

取組項目	単位	平成28年度目標	実績	目標値比(%) 増減	評価
			平成28年10月～翌年9月		
1 二酸化炭素排出量削減	kg-Co2/t	26.619	16.649	▲ 38.74	○
(1) 電力使用由来の二酸化炭素排出量削減	kg-Co2/t	2.473	2.083	▲ 15.77	○
(2) 軽油使用由来の二酸化炭素排出量削減	kg-Co2/t	21.883	13.415	▲ 40.25	○
(3) ガソリン使用由来の二酸化炭素排出量削減	kg-Co2/t	2.263	1.151	▲ 49.13	○
二酸化炭素排出総量	kg-Co2	/	394062.534	/	/
2 廃棄物の排出量削減					
(1) 自社産業廃棄物の有効活用率の向上	%	有効活用率98%以上	有効活用率100%	2.00	○
	%	建設汚泥100%	建設汚泥100%	0.00	○
(2) 自社排出一般廃棄物の削減	%	有効活用率35%以上	有効活用率38.2%	3.20	○
	kg	586.1	504.19	▲ 81.91	○
3 コピー用紙等使用（購入）量削減					
(1) コピー用紙等紙使用（購入）量削減	kg	250.47	230.00	▲ 8.17	○
4 主要事務消耗品のグリーン商品購入率					
(1) 主要事務消耗品のグリーン商品購入率	%	55.0以上	74.9	19.90	○
5 総排水量の削減					
(1) 地下水使用量の削減	m3/t	0.54	0.295	▲ 45.37	○
6 固化材使用量の削減					
(1) 固化材使用量の削減	t/t	0.131	0.109	▲ 16.79	○

評価 ○：目標達成

△：目標は達成していないが、予防処理を必要とし是正処置の必要はないと判断できるもの  
（環境活動計画の取組みを実施しているが、目標を達成できなかった場合）

×：目標が達成しておらず、是正処置が必要と判断するもの  
（環境活動計画が実施されず、目標を達成できなかった場合・外部からの苦情により是正処置が必要と判断された場合・環境関連法規が遵守されていない場合）

# VI 環境活動計画と取組の評価及び次年度の取組内容

(1) 環境活動計画と取組の評価

表-6

H28年度取組項目	H28年度取組結果と評価	H29年度取組項目
<b>1 二酸化炭素排出量削減</b> (1) 購入電力量の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退社時のエアコンの消忘れ防止。</li> <li>・ 昼休み時の消灯。</li> <li>・ 不必要箇所の消灯。</li> </ul> (2) (3) 化石燃料の使用削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車時のアイドリングストップ。</li> <li>・ 車両整備による燃費の向上。</li> <li>・ 始業前点検を行う。</li> <li>・ 法廷速度を厳守。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退社時には冷房を消したかチェック後に退社した。</li> <li>・ 昼休みにはPCの電源や照明等を消した。</li> <li>・ 使用しない部屋の照明を消すように努めた。</li> </ul> 評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐停車時のアイドリングストップに心がけた。</li> <li>・ 定期的に車両整備を行っていた。</li> <li>・ 始業前点検表を作成し、毎日点検を行った。</li> <li>・ タコメータで、法廷速度を守っているか確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退社時のエアコン消忘れ防止。</li> <li>・ 不必要箇所の消灯。</li> <li>・ 昼休み時の消灯。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐車時のアイドリングストップ。</li> <li>・ 車両整備による燃費の向上。</li> <li>・ 始業前点検を行う。</li> <li>・ 法廷速度を厳守。</li> </ul>
<b>2 廃棄物の排出量削減</b> (1) (2) 廃棄物の排出量削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミスプリントを無くす。</li> <li>・ ごみ分別の徹底。</li> <li>・ 両面印刷の徹底。</li> <li>・ 使用済用紙の裏面利用。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PCの内容を良く確認した後に印刷を行うよう心掛けた。</li> <li>・ ごみ分別を徹底的に行い、再資源化に努めた。</li> <li>・ 両面印刷が可能なものは、両面印刷を行うように心掛けた。</li> <li>・ 使用済コピー用紙は分別・保管し、裏面利用しやすいように心掛けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミスプリントを無くす。</li> <li>・ ごみ分別の徹底。</li> <li>・ 両面印刷の徹底。</li> <li>・ 使用済用紙の裏面利用。</li> </ul>
<b>3 コピー用紙等紙使用(購入)量削減</b> (1) コピー用紙等紙使用(購入)量削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コピー用紙の在庫管理を徹底。</li> <li>・ ごみ分別の徹底。</li> <li>・ 使用済用紙の裏面利用。</li> <li>・ 両面印刷の徹底。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コピー用紙在庫チェック表を作成して管理した。</li> <li>・ 使用済コピー用紙の分別・保管場所を明確にする事により裏面利用が徹底された。</li> <li>・ 両面印刷が可能なものは、両面印刷を行うように心掛けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コピー用紙の在庫管理を徹底。</li> <li>・ ゴミ分別の徹底。</li> <li>・ 両面印刷の徹底。</li> <li>・ 使用済用紙の裏面使用。</li> </ul>
<b>4 主要事務消耗品のグリーン化を向上</b> (1) 主要事務消耗品のグリーン化を向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務機器、事務用品はグリーン商品を購入する。</li> <li>・ 差換えが可能な事務用品を購入。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務用品のカタログからグリーン商品を選び購入に心がけた。</li> <li>・ 差換え可能な事務用品は可能なを選び購入に心がけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務機器、事務用品はグリーン商品を購入。</li> <li>・ 差換え可能な事務用品を購入。</li> </ul>
<b>5 地下水使用量の削減</b> (1) 地下水使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃の際には洗車水の水圧を上げて作業する。</li> <li>・ 清掃作業車残水の翌日使用。(冬期以外)</li> <li>・ 降雪がない時は消雪水を停止する。</li> <li>・ 清掃手順を明確にし、迅速に清掃を行う。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水圧を上げて、迅速に清掃を行った。</li> <li>・ 冬期は凍結の可能性があるため、残水を翌日に使用する事が出来ないが、冬期以外は翌日使用に心がけた。</li> <li>・ 消雪を手動にし、降雪がある時に水を出すよう心がけた。</li> <li>・ 清掃手順を明確にし、迅速に清掃を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃の際には洗車水の水圧を上げて作業。</li> <li>・ 清掃作業車残水の翌日使用(冬期以外)。</li> <li>・ 降雪がない時は消雪水を停止。</li> <li>・ 清掃手順を明確にし、迅速に手順を行う。</li> </ul>
<b>6 固化材使用量の削減</b> (1) 固化材使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚泥含水が高い場合は沈殿槽に入れ上水を排水した後造粒機槽に移送。</li> </ul>	評価 A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造粒機槽に投入する際は、タンク内の上水を除去してから投入するよう徹底した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚泥含水が高い場合は沈殿槽に入れ上水を排水した後造粒機槽に移送</li> </ul>

注) 評価

- A : 取組が順調に行われ、目標を達成できた。
- B : 取組が順調に行われたが、目標を達成できなかった。
- C : 取組が徹底せず目標を達成できなかった。

## (2) 評価のまとめ

### 全体

環境活動計画の活動内容を把握し順調に取り組んできました。  
前年の評価から、今年度は汚泥処理量を作業量とし、汚泥1t当りのCo2排出量を目標値として定め、エコ活動を行いました。  
その結果すべての目標を達成する事ができました。

- 1 (1) 二酸化炭素排出量の削減  
購入電力・化石燃料の削減について、今年度は作業量を考慮した目標値を定め環境活動計画に取り組んだ結果、目標を達成する事が出来ました。  
今後も環境活動計画に遵守し、使用量削減に努めます。
- 2 (1) 自社排出産業廃棄物の有効活用率の向上  
自社排出産業廃棄物の汚泥は、100%再生土として処理し、活用しました。  
(2) 自社排出一般廃棄物の削減  
年末、年度末の提出書類作成の際に廃棄物が増加していますが、環境活動の取組みを順調に行い、目標を達成する事ができました。  
今後ごみ分別を徹底する事でリサイクル率を上昇させると共に廃棄する前に再利用可能かを確認し、利用する事を継続的に行い、目標達成に努めます。  
(3) コピー用紙の削減  
10月～12月にかけて2現場の書類作成があり、コピー用紙を大量に使用した事が原因で目標を達成する事が出来ませんでした。ですが、1月～月別では目標を達成した事から是正処置をとらずこのまま活動を続けた結果、今年度は目標を達成しました。  
今後も環境活動計画を継続して取組み、目標達成に努めます。  
(4) 事務所消耗品のグリーン化  
事務消耗品を購入する際には、加々からグリーン商品を抜粋し、購入する事に心がけました。
- 3 (1) 地下水使用量の削減  
環境活動計画の取組みを順調に行い、目標を達成する事が出来ました。  
今後も環境活動計画を継続して取組み、目標達成に努めます。
- 4 (1) 固化材添加量及び凝集薬品の削減  
今年度は含水比の多い汚泥が持込まれましたが、環境活動計画を遵守し取り組んだことから目標を達成する事ができました。今後も環境活動計画の取組を継続して行い、固化材使用量の削減に努めます。

## Ⅶ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける環境関連法規制は次の通り

適 用 さ れ る 法 規 制	確認は ○	遵守評価
廃棄物処理法	○	違反なし
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	○	違反なし
環境基本法	○	違反なし
新潟県環境基本条例	○	違反なし
地球温暖化対策の推進に関する法律	○	違反なし
国等による環境物品等の調達の推進に関する法律	○	違反なし
水質汚濁防止法	○	違反なし
浄化槽法	○	違反なし
長岡市地下水保全条例	○	違反なし
毒物及び劇物取締り法	○	違反なし
フロン排出抑制法	○	違反なし

環境法規等遵守状況を月1回の環境関連法規等遵守状況チェックリストにより遵守状況をチェックし、確認しています。その結果、環境関連法規への違反はありませんでした。尚、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。また地域住民からのクレームもなく、訴訟もありませんでした。

## Ⅷ 代表者による全体評価と見直しの結果

作成 : 平成29年10月31日  
作成者 : 環境委員会事務局

### 代表者によるエコアクション2.1取組状況の評価と見直し

項目	変更の必要	評価結果及び指示事項
環境方針	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行通りにする。</li> </ul>
環境目標	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目において全目標を達成しているが、汚泥量1t当りのCo2排出量を目標とした事から、汚泥量の変動により目標達成出来ない年度もあると考え、目標を変更しない事とする。</li> </ul>
環境活動計画	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行通りとし、継続する事。</li> </ul>
その他環境経営システム	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効に機能している事から、現行通りにする。</li> </ul>
代表者の総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社員が環境法規等を理解、遵守したうえで環境理念に従い、事業活動を継続実施する。この事が企業経営の理念、礎であり根幹を成す方針であることを認識して業務に当たる。</li> <li>・環境目標の実績については各項目、目標達成できた事については一定の評価をしたい。環境関連への社会的要求は、一層高まっている事を念頭に次年度の目標値について検討する。更に形骸化する事なく、定めた目標値に対し、常に監視する事が肝要である。</li> <li>・喫緊の課題である再生土販売については、現状で年間製造量をも販売できていない。将来的に受入れ再生処理に苦慮することも考えられる。営業部として今後、グリーン調達法の理念からも販売促進させるべく、様々な媒体を駆使した営業活動が必要である。</li> <li>・エコ活動は環境保全維持と同時に企業のコスト削減、収益に影響していることは自明の理である。よって繰返し見直しを行いわかり易く、使い易い内容にすることが必須である。更に個別項目には数値的観測を常に怠る事のないようお願いしたい。</li> <li>・「環境方針、活動計画、システム」については現行通りとし、継続する。また、形骸化することなく、尚一層のエコ意識の向上と全社員の周知徹底を図り、当社の発展に寄与することとする。</li> </ul>

## Ⅹ 地域・社会貢献



平成29年4月4日  
当社越路事業所中間処理施設隣接地  
排水路清掃状況



平成29年4月4日  
当社越路事業所西津ストック場隣接地  
排水路清掃状況



平成29年6月27日  
当社越路事業所西津ストック場隣接地  
除草剤散布状況

地域・社会貢献活動の一環として、毎年2回事業所・ストック場周辺の側溝清掃を行っています。又、緑化活動を行っている「緑の募金」の寄付や「緑の百年物語緑化推進委員会」の会員となり、地域の森づくりに協力しています。